

海燕社

の小さな

映画会2025

10.19日 14時～

沖縄県立博物館 美術館 講堂(3F)

受付13:15 開場13:30 料金 1,200円(予約) 当日1,500円

※小中高生は600円(先着10名まで無料)

予約は海燕社まで TEL: 098-850-8485 E-mail: mail@kaiensha.jp

かいえんしゃ



予約フォーム

芸術文化振興基金助成事業

九州・沖縄から
文化力

九州文化振興基金助成事業
後援：沖縄県、那覇市



10月会

October 2025 Meeting

日本伝統人形芝居

後援：公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

『文楽に生きる 吉田玉男』

ポーラ伝統文化振興財団 / 1981年 / 36分

本映画は朝日座の楽屋といった珍しい場面も撮影しており、今まで紹介してきた映画と同様、その記録性と芸術性を思う。加えて歴史性というものを感ずる。というのも、江戸時代に始まる文楽には約400年の歴史がある。本映画が制作されて約40年、それは文楽の歴史の10分の1に相当する。その間、朝日座が1984年に閉鎖され、玉女が二代目玉男を2015年に襲名した。これらは文楽史上の重要な一齣である。そのような40年間の流れを実感させる点、本映画も文楽の歴史そのものと言えるのではないだろうか。ポーラ伝統文化振興財団が伝統文化記録映画の制作を開始したのが1980年。1年後に文楽を撮影した点から言っても、貴重な作品である。

三浦 裕子 (武蔵野大学文学部教授、同大学能楽資料センター長)
公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団 オフィシャルサイトより



『伊那人形芝居』

ー明日へつなぐ伝承のチカラー

ポーラ伝統文化振興財団 / 2010年 / 36分

長野県伊那谷に約300年前から継承されてきた「伊那人形芝居」。かつては40近くあった人形座は、今では四座(黒田、早稲田、今田、古田)を残すのみとなったが、危機に瀕するたびに創意工夫で蘇らせ、新たな生氣で苦難を乗り越えてきました。そこには常に計り知れないほどの人形への熱い「情熱」と強い「想い」が流れており、人形そのものの魅力と芝居の面白さは、時代を超え人々の心を捉え、生活の支えにもなっています。そして、技術のみならず人形に込めた「情熱や想い」が一つの文化となり、地域コミュニティやアイデンティティを形成してきました。まさに「伝承のチカラ」ともいうべきものでした。今なお人形とともに長年暮らし続けている人たちが、明日へ繋ぐために青年や子供たちに伝えようとしているものとは何なのかを、あらゆる視点から映像で追っていきます。



上映作品、上映日は都合により変更することがあります。詳細は、海燕社のウェブサイト (<http://www.kaiensha.jp>) や SNS にてご確認ください。